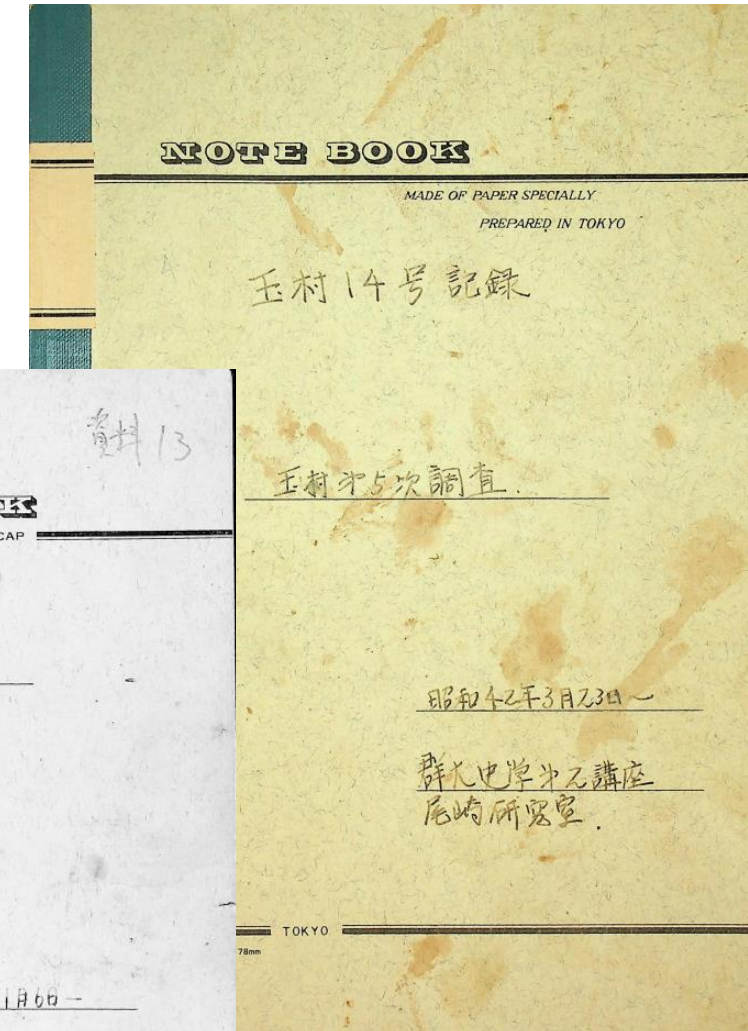
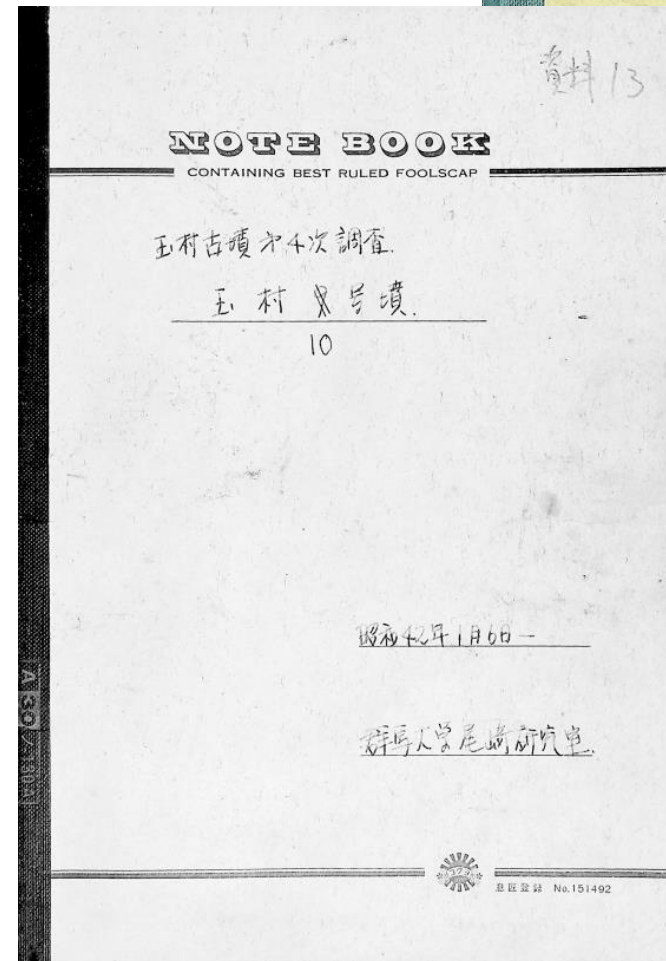


# 尾崎研究室の調査日誌

- ・ 玉村古墳群について
- ・ 芝根村第15・16号古墳調査
- ・ 玉村古墳第4次調査 玉村10号墳
- ・ 玉村14号記録 玉村第5次調査



# 玉村古墳群について

## ○二人の功労者

### ・尾崎喜左雄先生

調査当時、玉村町にも多くの知り合いや教え子があり、ごく自然に尾崎先生への依頼につながった。また、この調査による岡田さんとの関わり合いにおいて、文化財保護の考え方について大きな影響を与えた。

### ・岡田登喜男さん

調査が順調にすすむための条件整備に尽力した。また、上記のような背景から、ブルドーザーが古墳を押しつぶしそうになった時に、それを大の字に寝転がって阻止したエピソードが残っている。まさしく、体をはって調査をすすめたと言える。

## ○調査の経緯

この調査のきっかけとなったのは、周辺一帯の農業構造改善事業であった。当時は、埋蔵文化財の調査が社会的に十分認知されておらず、恒常的な発掘調査体制も整備されていなかったため、玉村古墳群の調査は工事と背中合わせであった。埋蔵文化財専門の職員も当然いなかったため、尾崎先生に相談が持ちかけられて、調査が始まった。





|       |                                                                                                                                                                     |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11:30 | 作業開始<br>鬼形,清水,柿沼,藍原,依田,右島,田口<br>鈴木,松本,中島<br>芝根16号に鬼形 <sub>兄</sub> ,右島 <sub>兄</sub> でとりかかる                                                                           |
| 12:10 | 昼食                                                                                                                                                                  |
| 1:00  | 作業開始<br>依田 <sub>兄</sub> ,田口 <sub>姉</sub> ,中島 <sub>姉</sub> 加わる                                                                                                       |
| 2:30  | 高木 <sub>姉</sub> 登場<br>丘陵の北端に出ていた石組みは井戸のものと判明<br>その石組みより南へ長さ約5mのトレンチを入れたが<br>深さ1.5m<br>何も遺構らしきものはなし<br>トレンチの深さ1.5mに位まではs23の台風の際の土砂が堆積したものらしくその中より,鉄片<br>茶わんの破片等が出ている |
| 6:15  | meeting                                                                                                                                                             |
| 15号   | 石室左壁の一部が出る<br>天井石らしきものがある<br>石壁はまだ出ていないがあるらしい<br>はにわ片 2~3片<br>壁の石は浮石質角せん石安山岩<br>明日ー広く深く掘り下げ右壁,左壁,奥壁を調べる                                                             |
| 16号   | 断面に出ている、石積みをおってが井戸となる<br>その面にトレンチをいれたが？からみて<br>s22の台風時のものが堆積しているらしい<br>今日でうちきり                                                                                      |
| 人員配当  | 測量 高木,田口,？井<br>15号 清水,藍原,鈴木,松本,右島<br>裏込め 鬼形,依田,中島                                                                                                                   |

○調査の諸準備

かつては連日現地で陣頭指揮に当たっていた尾崎先生も、この頃は、調査以外の仕事が目白押しであったことや、当時は64歳と御高齢であったから、日々の現地は学生に任せ、期間中に1、2回程度やって来られて、学生の説明を受けた後、細かな指示をしていくのが常だった。現地調査の責任者は、3年生の清水和夫氏になり、その他、様々な係が分担された。

○食事当番とお茶休み

調査期間中は、学生は公民館に合宿生活である。食事は当番制で、2人1組、1日交替で公民館の台所を借りて準備した。当時でも、薪でご飯など、普段の生活の中ではなかったことで、特に1年生が当番の日は、まったく未経験の場合もあるので、「今日のご飯はちゃんとできたらうか？」と一同ドキドキしながら食事に臨むことになる。



玉村古墳第4次調査 玉村10号墳(昭和42年1月6日～)

